

JICA草の根技術協力事業
「ベトナム国キエンザン省における水環境改善のための人材育成プログラム」
平成26年度（2年次）活動報告

今年度はベトナム国キエンザン省にて平成26年5月、9月、平成27年1月にそれぞれ4～5日間、神戸市にて平成26年11月に7日間、計4回の研修を実施しました。以下のとおり、今年度の研修成果を報告いたします。

問題分析と行動計画表の作成 . . . なぜ水環境が悪化？

1年次の活動の終わりには、①し尿処理 ②生活排水 ③ごみ対策 が大きな課題であると、日本・ベトナム両国のプロジェクトメンバーの間で認識されましたが、今年度の最初は「PCM手法」^{注1} を使用して、課題の原因を改めて掘り下げていくワークを行いました。

“なぜキエンザン省の水環境が悪化してきているのか”

→“汚染されてきたから” “なぜ汚染されてきたか”

→“生活排水処理がよくないから、廃棄物が放棄されているから. . .” “なぜ排水処理がよくないのか”

→“排水処理施設がないから、行政管理の効果が不十分だから” “不十分なのはなぜ？”

→“資金がないから” “市民の協力が得られないから” “市民の協力が得られないのはなぜ？”

→“啓発活動が効果的に行われてないから”

なぜ？なぜ？と原因を掘り下げ続けていくことで、水環境悪化の理由に“隣国や隣の省にある上流からの影響”や“養殖業排水からの影響”といった神戸市での課題とは異なる回答もあがり、ワーク中「ここまで原因が何か考えたことなかった！初めて気が付いたことがたくさんでよかったよ」といったベトナム人メンバーであるキエンザン省環境局職員からの感想がでたことから、ベトナム人の文化、習慣や育ってきた環境等は日本と違うところも多いと改めて実感しました。ワーク終了後にはベトナム人メンバーのみで、各課題を改善するための行動計画をたてる作業をしてもらい、以下の課題をはじめ、多くの具体的な行動計画が作成されました。

“生活排水処理がよくないのはなぜ？”

→ **原因：** 環境保護意識が不十分

→ **目標：** 啓発を強化していく **具体的な活動：** 新聞、ラジオ、学校教育等からの啓発

実施機関： 教育関連部署 **実施期間：** 短期(1～3年ぐらいの目安)

このように、ベトナム人メンバーたちの中で水環境に対する啓発の必要性といった共通認識を持つことができ、次のステップ・住民向け啓発資料の作成に取りかかることになりました。

注1)「PCM手法」とは…途上国の人々と援助する国(例えば日本)の関係者が一堂に集まり、援助を必要とする人々の抱えている問題や課題を考えながら、事業を計画する方法です。

詳しくは下記ページ(外務省の開発教育・国際理解教育ハンドブックより)をご参照ください。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/edu/kyouzai/handbook/html/h20104_2.html



左) まず、ベトナム人研修員たちが、一人ずつ水環境が悪くなった原因について思いついた項目をふせんに記入しています。最初は何を書いたらいいのか戸惑っていた人もいましたが、時間が経つにつれ、積極的な話し合いがされるようになりました。

右) ふせんに記入された原因がどの課題の原因につながっているか議論しています。

帰国後、皆に伝えたい「ゴミ対策」を学ぶ・神戸での研修

神戸での研修では、キエンザン省の課題のひとつ「ゴミ対策」について神戸市がどのようにゴミ対策を実施しているのか学びました。市内リサイクル施設を見学してもらい、神戸市職員、市民団体の方から、それぞれ市民への環境啓発をどのように行ってきたか、授業のデモンストレーションや段ボールコンポスト講座等をとおして紹介してもらいました。研修中、「キエンザン省では啓発を先に行うべきか」「いや処理場をまず建設すべきか」と意見交換も活発にあり、「帰国後、市民向けの環境啓発が実施できるよう提案していきたい」「まずは自分の周辺、家族や同僚から今回学んだことを伝えていきたい」「キエンザン省でぜひ神戸市の環境教育を応用したい」といった感想が寄せられました。



左) 神戸市西区のこうべ環境未来館にて環境教育に関する展示の見学。

右) 神戸市職員に学生向け授業のデモンストレーションを実施してもらいました。水のごれは何が原因なのか、どれくらい汚いのか、誰でも理解できるよう、分かりやすく説明しています。

中間報告会の開催

今年度最後の研修として、1月、キエンザン省ラックザー市にて中間報告会を開催しました。

報告会では、最初にキエンザン省側のプロジェクトメンバーから約2年間各研修で学んできたこと、本プロジェクトへの抱負を発表してもらいました。その後、ゲスト参加のJICAベトナムからは、「様々な部署が連携してプロジェクトメンバーとして参加し成果をだそうと取り組んでいることに評価する」キエンザン省の教育訓練局、科学技術局からもそれぞれ「環境啓発は重要」「環境意識をもっと高めなければいけない」と意見がありました。

現在、ベトナム人メンバーでモデル地区の住民に配布する予定の環境啓発のちらしを作成しているところです。最終年次である来年度は本プロジェクトの目標「下水道を含む水環境改善方策および住民への広報、啓発活動等に関する必要な知識を備えている人材が育成される」を達成できるよう、日本人専門家、ベトナム人メンバー力合わせてプロジェクトを進めていきます。

おまけーキエンザン省の特産物と水環境の実状ー

キエンザン省はタイランド湾に面した立地を生かし水産物水揚量がベトナム一です。街中でも豊富な種類の水産加工物が売られています。また省南部に位置する人気の観光地・フーコック島の特産物はベトナム料理に欠かせない調味料ヌックマム(魚醤の一種)です。だからこそ、水環境の悪化はキエンザン省の経済成長に大きな打撃を与えるに違いありません。しかし残念ながら、キエンザン省を訪れる度、市街地では経済発展している大きな変化を感じる反面、ゴミが増えていることも実感します。今後キエンザン省の職員・住民たち自ら環境改善に理解し取り組んでもらえるよう、本プロジェクトが一助となるよう努めていきたいです。



左から、キエンザン省都ラックザー市内住宅地に流れる川辺のゴミ、ラックザー市海岸に浮かんでいる海草とゴミ、フーコック島のヌックマム工場、フーコック島の港(ヌックマム原料のイワシが水揚げされています)